

研究課題名「門脈圧亢進症に伴う血小板減少に対する脾摘の効果予測因子についての検討」に関する情報公開

1. 研究の対象

2001年1月1日～2018年4月30日までに当院で脾臓摘出術あるいは部分的脾動脈塞栓術を受けられた方。

2. 研究目的・方法・研究期間

門脈圧亢進症を伴う慢性肝障害症例において、脾摘は汎血球減少に対する治療として認識されている。部分的脾動脈塞栓術よりも確実な効果が期待でき、長期に渡り血球数の改善を維持できる点は、抗ウイルス治療においても有利である。しかし、血小板減少や脾腫は緩徐に進行するため、脾摘術を行う時期の決定に苦慮することがある。どのような時期に脾摘を行うと有効な血小板上昇が得られるかについて、過去の施行症例から明らかにしたい。

2001年1月1日～2018年4月30日の間、門脈圧亢進症に対して脾摘を施行した42例について、脾摘による術後血小板数の推移を評価し、正常化(15万/ul)について検討する。脾腫については、CTにおける最大断面積(mm²)を変数として評価する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報:

年齢、性別、病歴、肝疾患治療歴、手術日、手術前後の血液検査結果、腹部CT画像等

試料:

なし

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

〒466-8550

名古屋市昭和区鶴舞町65

名古屋大学大学院医学系研究科

消化器外科学

TEL: 052-744-2245

FAX: 052-744-2252

研究分担者:

名古屋大学大学院医学系研究科消化器外科学・助教・林 真路

研究責任者:

名古屋大学大学院医学系研究科消化器外科学・教授・小寺泰弘

-----以上